

輸出事業計画

※申請者名（株）小池えのき、品目：エノキタケ

1. 輸出における現状と課題

現状

エノキタケは、長野県でも雪深い北信地域で昭和初期に人工栽培が始まり、冬期間の換金作物として昭和30年代に導入が進み、その後全県に生産拡大し、生産量は全国1位の産地である。

（シェア42% 51,461t（令和4年特用林産物生産統計）

その中でも中野市は、エノキタケの生産量が県内トップの産地である。

課題

近年、エノキタケの生産量が消費量を上回っており、需給バランスが悪く価格の低迷が続いている。

また、冬の鍋以外の食べ方が浸透せず、春夏の需要が大きく低迷しており、通年で安定栽培ができる生産力を活かせていない。

そのため、エノキタケの消費拡大のために、「加工品需要」「輸出需要」を掘り起こし、通年で安定した需要を確保するための取組が急務である。

2. 輸出事業計画の取組内容

取組

○エノキタケ（加工品）

- ・新たな加工品（根元ステーキ等）の開発及び可能性の検討
- ・加工・物流コスト削減のため、海外工場での製造とそれに合わせた製造方法の検討

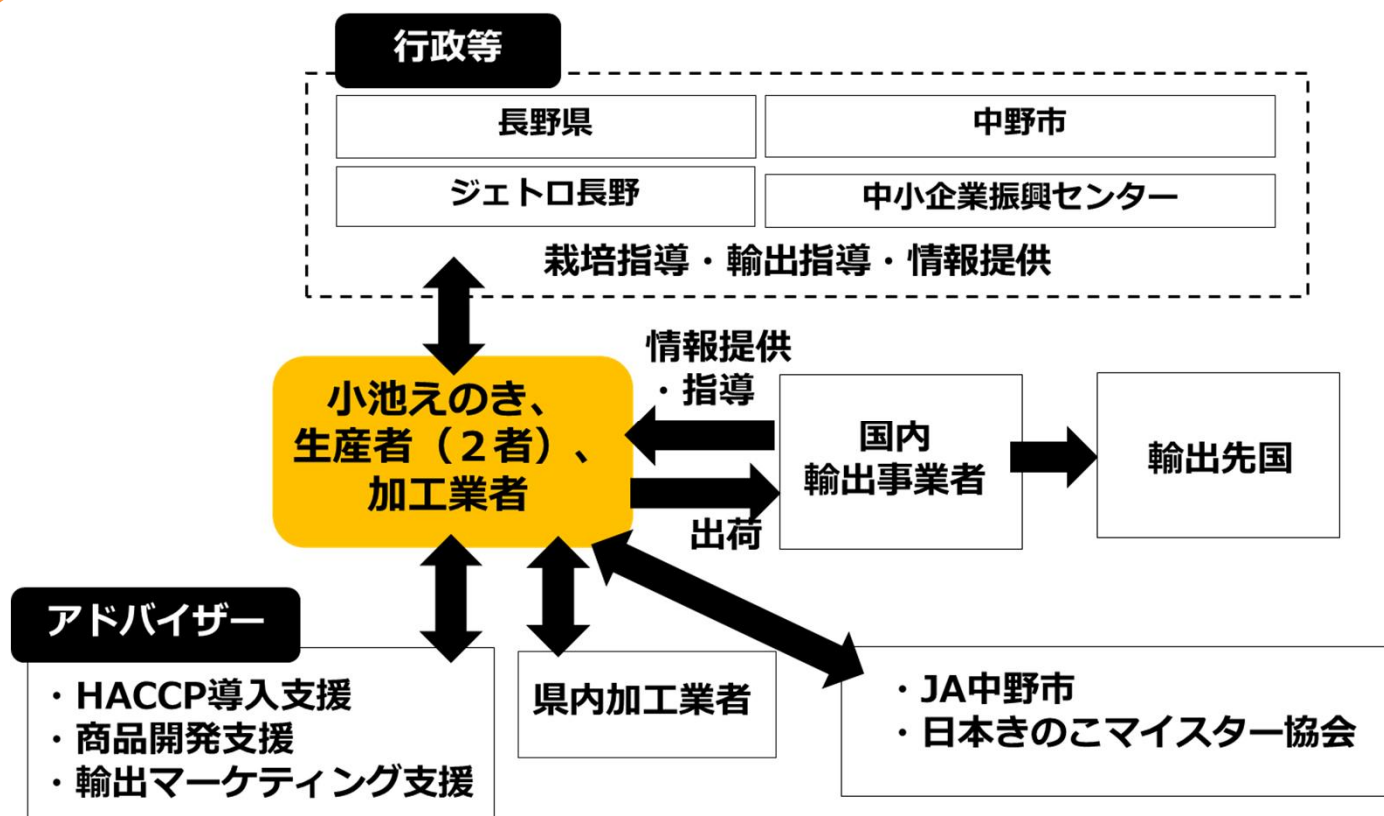
○エノキタケ（生鮮）

- ・鮮度保持向上のための包装資材等の研究
- ・グローバルGAPの認証取得に向けた準備と取組

○共通

- ・商談会等への参加、サンプルの送付等による海外バイヤーへのPR
- ・広告媒体を活用した現地プロモーション活動

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

エノキタケ加工品		現状 (令和5年度)	目標年 (令和7年度)	備考
中野市	輸出額(円)	0	5,000,000	
	輸出量(kg)	0	500	
	輸出先国	—	マレーシア、シンガポール、EU(ドイツ)、イギリス、インドネシア、台湾、香港	
	生産量(kg)	0	500	

生鮮エノキタケ		現状 (令和5年度)	目標年 (令和7年度)	備考
中野市	輸出額(円)	20,000,000	70,000,000	単価上昇
	輸出量(t)	300	400	
	輸出先国	台湾、オーストラリア	台湾・香港、カナダ、アメリカ、オーストラリア	
	生産量(t)	4,000	5,800	